

大学院
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部
(男女共学)

幼稚部
(認定こども園・男女共学)



Contents

- ごあいさつ … 2~4
- 相模女子大学日本学国際研究所開設のご挨拶 … 4
- 客員教員のご紹介 / 静修実科女学校のはじまり … 5
- **特集** 2024年度 入学式 … 6~7
- 学園各部報告 … 8~10
- 同窓会だより / 2024年6月以降開講講座のお知らせ … 11
- マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

卒業シーズンを 終えて

学校法人相模女子大学
理事長
風間 誠史



この三月は久しぶりに各部の卒業式がほぼコロナ禍以前のかたちで行われ、卒業していく子供たち、児童、生徒、学生たちとゆっくり向き合う時間を持つことができました。そこでふと頭に浮かんだのは、人に「量産型」はない、ということでした。一番それを感じたのは幼稚園の卒園式で、子供たちはみな「正装」していて、ちよつと見たところよく似ていますが、しかしひとりひとり明らかに違う。ひとりひとりがその子だけのオーラを出しているのです。「個性」というのが理屈ではなく実感できる。それは小学生も中学生も、そして大学生も同様でした。

「量産型」というのは、『機動戦士ガンダム』に出てきます。主人公の乗るガンダムは唯一無二の無敵の機体ですが、それによく似たジムという機体が「量産型」で、大量に戦場に送り出され、次々と破壊されていくのです。これは、戦場で戦うのは実はヒーローではなく、無名戦士たちだということを示していると思います。そして戦争は人間を「量産型」として戦場に送り出すのだということ。

人はしかし「量産型」ではありえないのです。20世紀に飛躍的に発展した生命科学は、人の遺伝情報がDNAにあることを突き止め、その解析も進みました。人間のいわばプログラムがわかるようになった。しかし、同じDNAつまりプログラムを持つ一卵性双生児でも、人としては全くの別人であることは誰もが知っていることです。これは考えてみると大変不可思議なこと、そしてすごいことではないでしょうか。私と「同じ」人、あなたと「同じ」人は決して存在しません。私たちはこの、ひとりひとりが個別の存在であるという謎だらけの事実、謙虚に向き合うほかはない。教育に携わる者は、本来別々である子供たち、若者たちを同じ「型」にはめるようなことはしてはいけません。そして、人を「量産型」にしてしまう戦争という愚行を絶対に許してはいけません。そんなことをつらつらと考えてしまった、卒業シーズンでした。

「文化は平和を生む」

相模女子大学
日本学国際研究所の開設について

相模女子大学・相模女子大学短期大学部
学長
田畑 雅英



今年度からもう一期学長を務めることになりました。とうてい器ではないのですが、前任期の経験もふまえて、よりよい大学をめざして微力を尽くしたいと存じますので、ご指導ご協力のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

本学は新たな試みとして、別項にもあるように、附置研究所として「相模女子大学日本学国際研究所」を本年四月に開設しました。「日本学」とは、文学・芸能だけでなく、文化・社会のさまざまな分野の日本に関わる対象やテーマを国際的な視点から考察する学問で、日本文化や社会を絶対視するのではなく、世界の中の客観的・相対的な位置と価値を考えようとするものです。本研究所においては、本学で従来から活発に行われてきた日本に関わる研究の素地を活かして、国際的な研究や学際的な研究を活性化していくことをめざしています。また、その成果を学問の世界だけに閉じ込めるのではなく、本学の教育に反映させるとともに、広く地域や社会に還元していくことをめざしています。

そうした意図から、昨年度から今年度初頭にかけて、一般の方々にも公開して、本学のピーター・J・マクミラン客員教授による開設準備講演会と、松竹株式会社との共催で、歌舞伎俳優の片岡亀蔵さん、新派俳優の河合雪之丞さんをお招きした、二回にわたる歌舞伎の特別講座を開催しました。いずれも非常に多くの方々がお来場になり、ご好評をいただきました。

マクミラン客員教授は、右記の講演会で、「文化は平和を生む」と述べています。これは本研究所のバックボーンを表わす言葉であると思います。世界にはさまざまな文化が存在しますが、それらの文化には本来優劣はありません。日本の文化や社会をそうした視点でとらえる時に、唯我独尊や不当な自己卑下に陥らず、多様性の容認と平和共存への道が開けると考えます。本研究所は、ささやかなところから始めて、着実に育っていくよう努力したいと思っておりますので、皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2024年度を 迎えて

中学部・高等部
校長
武石 輝久



中学部・高等部は4月6日(土)無事入学式を終えました。来賓の方々、保護者・ご家族が見守る中、午前の部で高校生289名、午後の部で中学生79名の新生は、真新しい制服に身を包み、胸を張って新たなスタートを切りました。

入学式で私は新中学生に、大人への階段を登っていくために「他人のために自分の時間を使える人、指を自分に向けられる人」になろうと伝えました。自分以外の人、社会のためにどれだけ時間と労力をかけられるか、また相手を変えようとするのではなく、指を自分に向け自分が変わっていくことが大切だと話しました。また新高校生には、「本来自分が持っている価値観を失わずに、加えて自分の価値観や隠れたバイアスをいったん横に置き、多様な価値観に自分を開くこと」を大切に高校生活を送って欲しいと話しました。

中等部では今年度、「外向きの学び」の充実を目指して教育活動を行ってまいります。中等教育(中学・高校)の学びでは、まず基礎的な知識・技能を身につけることが必要ですが、その上で、生徒たちの学びを外に開く、教科書から外へ、授業から外へ、学校から外へ開き、社会、世界に繋がるような学びを創ることがさらに重要です。そのような「外向きの学び」が生徒たちの思考力、知的好奇心、やる気などの非認知能力を引き出し、自律的な学びへと導きます。また、そのために私たち教職員の意識もまた、「外向き思考」でなくてはなりません。世の中の変化を看過せず、視野狭窄によって教育方法、生徒支援スキルを固定化してしまわないように、外部に目を向け、視座を高める努力が必要です。

中学部・高等部は、「外向きの学び」に挑戦する全校生徒127名の生徒と、「外向き思考」に立ち向かう140名の教職員が協働し、全員のウェルビーイングを目指し、一歩一歩階段を昇ってまいります。今までと変わらぬ皆様からのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

一歩一歩着実に進む 改革をめざして

小学部
校長
小泉 清裕



小学部は53名の1年生が入学し、児童数429名で2024(令和6)年度をスタートいたしました。在校生と満開の桜の花が温かく新入生を迎えました。児童はもちろんのこと、教職員も楽しく充実した1年を過ごすことをめざしています。

入学式の式辞で「自分でできることは自分ですること」「人にもものにも優しくすること」「好き嫌いをしないでもなんでも食べて、思いっきり外であそぶこと」をめざしてほしいことを児童に伝えました。小学部の教育目標にもある「あたま」「こころ」「からだ」の育成を、1年生にもわかるように伝えたいつもりです。もちろん上級生にも伝わっていることを願っています。教職員一同、今までの以上にちよつとでも児童の学びが多い1年にする努力をしていきます。

そして、最初の職員会議では、小学部のさらなる改革について、一人ひとりが自分で「考える」ことが大切だという点を共有しました。教育の場では、やろうとしていることがどんなに小さなことであっても、それは何のために行うのかという「目的」が問われます。「今までやってきたから」「指示があったから」「楽しそうだから」「たぶん重要だから」などの思慮なき言葉に従って、自分自身で「考える」ことをしなのまま実行していることはいらないだろうかと自問自答を繰り返していくことが重要だと思っています。行っていることの「目的」を常に自らに問いかけ、納得できるまで「考える」ことが私たち教職員の仕事であり、この姿勢が改善の芽になると思っています。

私たちは、一人ではなく組織化した教職員の集団として、ともに力を合わせて、考え抜いて納得したことを実践していける小学部にする意気込みでいます。本年度、小学部は2学期制や社会科の専科制の導入、「探究学習」や「つなぐ手」の学習での新しい取り組み、施設の改善などを含めて、今までの実践を土台にして、一歩ずつ丁寧に、着実な改革に向けて進んでいくつもりです。

子どもの声に 耳を傾けて

認定こども園 幼稚園部
園長
角田 雅昭



2023年4月1日に、『こども基本法』が施行されました。1994年の『子どもの権利条約（子どもの権利に関する条約）』批准から29年経って、ようやく我が国でも子どもの権利を擁護する体制が整いました。これにより、子どものことを決めるときには、当事者である子どもの声に耳を傾けなければならぬということも明記されました。

本園の使命のひとつは、子どもたちを未来の市民へと育成することです。市民という言葉には、命令を忠実に実行するというよりも、主体的に考えて判断し、他の市民とともに公的な活動ができる人という意味が込められております。民主的な社会を構築していく市民になるためにも、自ら声をあげることがはもろんのこと、意見の違う他者の声にも耳を傾けるとともに、多様な意見の間から、誰一人取り残すことのない第三の道を創造できることが求められます。

ところで、『子どもの権利条約』は、ポーランドが1978年に国連へ提出した草案を契機としています。東欧のポーランドが提出した背景には、第二次世界大戦中に強制収容所に送られ消息不明となった、一人の孤児院長の存在が影響していたといわれています。その人は、ヤヌシュ・コルチャックという、医師、児童文学作家であり、当時としては最先端のラジオのパーソナリティでもありました。

彼は、「子どもは子どもの専門家である」という言葉を残しています。その意味は、一緒に過ごしている子どもたちは、お互いの状況や感情を、大人以上にわかり合っているということです。実際に、子どもたちは年下の子どもと遊ぶとき、年上の子どもたちが自らに不利な条件をつけて対等な関係にすることが見られます。その方が遊びを楽しめるからです。

幼稚園でこのような経験を重ねていくことで、子どもたちは、相手のことを理解し、支え合えるようになっていきます。私たちは、これからも子どもの専門家でもある子どもたちの言葉に謙虚に耳を傾けていきます。

相模女子大学日本学国際研究所

開設のご挨拶

相模女子大学日本学国際研究所 所長：山田 純

訪日観光客が殺到している昨今ですが、いったい日本の何に魅せられているのでしょうか。文化？ 建築？ あるいは自動車・楽器・アニメでしょうか？ 化粧品と答えた方は惜しいです！ 実は洗剤などの「軽工業品」なのです。

髪染め剤を挙げてみましょう。他国製品だと確かに染まりますが、髪はゴワつき肌も荒れがちです。「髪染め」で販売した以上は「染まらなかった」では契約違反となり訴訟沙汰になりかねないのが世界標準です。誰がどうやっても失敗せずに「完璧に」染まるのが「優良品」なのです。他方で日本製品はどうでしょうか。「髪うるおって」「肌に優しく」「週一回」の「シャンプー感覚」で「手軽に染まって」「低価格」、果ては「ハワイ旅行が当たる」となります。このような製品を販売しているのは日本だけなのです。では、日本の何がそのような「ああったらいいな、こうだったらいいな」を集積したような製品を作らせるのでしょうか。「わびさび」の精神だと言ったら驚くでしょうか。世界は先掲の文化全般を導いたこの精神性の異質さに魅せられているのです。

いま人気の歴史建築も伝統文化も、いずれは飽きられるでしょう。が、世界が日本の何に魅せられているのかを根本から理解できれば、きっとその先も「日本」を発掘し続けることができます。それは分析できるものなのです。なれば蓄積できるし、そこから未来を見据える視座を得ることもできます。

文学、サブカルチャー、デザイン、マーケティング、食・栄養、コミュニティ…と、あらゆる学科が揃った本学の環境だからこそ可能なのです。生まれただけの相模女子大学日本学国際研究所です。ぜひ地域ぐるみでお引き立てください。どうぞよろしく願いいたします。



客員教員のご紹介

本学では、各界の第一線で活躍される方を客員教員としてお招きし、授業・講演会にて多くの学生や一般の方々が受講しています。2024年度の客員教員の方々をご紹介します。



金子 修介 客員教授

映画監督。『信虎』（共同監督作品）でマドリード国際映画祭 2022 外国語映画部門最優秀監督受賞のほか、平成『ガメラ』三部作、『毎日が夏休み』『デスノート』など監督作多数。『おそろし』などのドラマ演出や著述でも活躍。



羽生 宏人 客員教授

JAXA 宇宙工学研究者。2013 年『イプシロンロケット』でグッドデザイン賞金賞受賞。そのほか、受賞歴多数。2018 年には開発のプロジェクトリーダーを務めた世界最小衛星打上げロケット (SS-520-5 号機) がギネス世界記録に認定。

※ギネス世界記録はギネスワールドレコーズリミテッドの登録商標です。



ピーター・J・マクミラン 客員教授

翻訳家・詩人。2008 年『百人一首』を英訳し、同年、ドナルド・キーン日本文化センター日本文学翻訳特別賞等を受賞。『伊勢物語』、『万葉集』など多くの古典翻訳を手がけ、2019 年には『英語版百人一首かるた』を制作。JICA チェア講師としても活躍。



客員教員エッセイ公開中!

<https://www.sagami-wu.ac.jp/faculty-introduction/visiting/essay/>

静修実科女学校のはじまり ~平山成信と野口保興~

帝国女子専門学校と附属日本高等女学校の二代目校長に就任した平山成信は、1914(大正3)年4月、4年前に東京女子高等師範学校を定年退職していた野口保興(1860年生~1943年没)を帝国女子専門学校および日本高等女学校の顧問に迎えました。野口は、1878(明治11)年、平山がパリ万国博覧会に公務出張した際、19歳の若さでその出張に随行し、その後数年間に亘るフランスの専門師範学校での留学を通じて、教育学、物理学、地理学、家事学を学修してきました。

顧問となった野口保興は、日本における「家政学」の先駆者の一人でもあり、2年制の簡易な実科教育機関である実科女学校の併設を平山に進言しました。1915(大正4)年4月に開校した静修実科女学校(特に裁縫に重点を置いた「家政二関スル知識技能ヲ授クル」ための教育機関)は、相模女子大学高等部の前身で、現在につながっています。

静修実科女学校の開校により日本高等女学校の入学者数も増加し、さらに、帝国女子専門学校の建て直しも功を奏し、徐々に経営は落ち着いていきました。その後、副校長に就任した野口保興は、帝国女子専門学校の校章デザインを考案しました。

その校章は、八咫鏡の輪郭にマーガレットの花びらを配したデザインで、今でも相模女子大学および併設各部の校章に引き継がれています。マーガレットの花言葉は「希望に満ち溢れる清楚な乙女心」を表しており、いつでも人の世に希望を失わぬよう、鏡は精神のよりどころを示しています。

(アーカイブ室設置準備室)



平山成信



野口保興



相模女子大学校章

参考文献: 『相模女子大学六十年史』『相模女子大学八十年史』『校舎は焼けても、学校は焼けない-相模女子大学の110年-』

特集 2024年度 入学式

大学院・大学・短期大学部 入学式



式典の様子

4月5日(金)、相模女子大学グリーンホールにおいて、相模女子大学大学院、相模女子大学・相模女子大学短期大学部の入学式を挙行了しました。
午前の部では、栄養科学研究科、栄養科学部・人間社会学部、短期大学部の新入生が、午後の部では、社会起業研究科、学芸学部の新入生が、晴れの日を迎えました。

今年の入学式は、ご家族・保証人の列席のもとマンドリンクラブによるオープニングセレモニーの後、開式されました。田畑雅英学長より「新入生を迎えることば」、風間誠史理事長、同窓会翠葉の田中百子会長より「お祝いのことば」が述べられました。
新入生代表による宣誓では、これからの大学生活への決意をしっかりと述べる姿に頼もしさを感じられました。
式典終了後には、新入生歓迎プログラムとして、アカデミックカウンの紹介が行われた後、夢をかなえるセンターの活動紹介、生活デザイン学科の学生による新生活をイメージしたファッションショー、さらにはアイドルダンスクラブ、舞踏研究部、ダンスクラブASTERによるお祝いのパフォーマンスが行われました。

最後に吹奏楽部の演奏のもと、その他のクラブ学生が合唱を披露し、学園キャラクター「さがつば・ジョー」とともに会場を大いに盛り上げました。

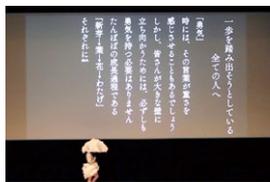
(学事企画課)



田畑雅英学長挨拶



新入生代表による宣誓



ファッションショー



クラブ学生と学園キャラクター「さがつば・ジョー」

高等部 入学式



合唱部による校歌披露



緊張した様子の新入生

寒さも和らぎ桜も満開の中、4月6日(土)午前、中学部高等部体育館にて高等部入学式を行いました。今年はコロナ禍以前のように制限なしで入学式を挙行することができ、また入学式が土曜日ということもあり、多数の保護者の方々に参列いただきました。新入生は緊張した面持ちでしたがその反面、これから始まる学校生活への期待を胸に新たな一歩を踏み出しているように感じました。新入生の皆さんには学校生活の中で様々なことにチャレンジし、一歩ずつ進んで力をつけて成長していつてほしいと思います。

(高等部1学年主任 養田恵子)



新入生宣誓

学園各部 報告

学園

第13回さがみ発想コンテスト

第13回さがみ発想コンテストでは、産学協働の取り組みに代わって、相模女子大学創立125周年記念「ワタシタチの相模女子大学イメージビデオ制作」をテーマにアイデアを募集し、2月21日(水)に最終審査会を開催しました。一次審査を通過した4組によるプレゼンテーションが行われ、最終審査の結果、グランプリをはじめとする各賞が以下のとおり決定されました。今後、優秀なアイデアについては、実現化に向けて検討を進めていきます。

【受賞者一覧】(敬称略・学年は受賞当時)

- グランプリ(1組)
高等部2年 三浦 里衣奈・原 苑乃子
『学園のバトン』
- 準グランプリ(1組)
生活デザイン学科2年 加藤色風流・小木曽芽衣
『学校視点のイメージビデオ』
- 入賞(2組)
●英語文化コミュニケーション学科3年
森脇詩音・村野遥・木俣悠(さがみ)の歴史探検
●英語文化コミュニケーション学科3年
西村百花
『リアルな学校生活Vlog』



さがみ発想コンテスト最終審査会の集合写真

大学院・大学・短期大学部

生活デザイン学科

2023年度卒業制作展を開催しました

生活デザイン学科では、今年度の卒業制作展を1月31日(水)～2月4日(日)の会期中で本学キャンパス内に開催しました。ガーデンホール・イングリッシュルーム・6号館・8号館の4箇所の会場に、本学科の特色である領域横断による学びが結実した、まさに集大成となる作品が並びました。ポスターなどのヴィジュアルデザイン、会場レイアウト、SNSなども全員が協力して運営に携わりました。また、作品はWEB展にて公開もしていますので是非ご覧くださいませ。会期中には多くの方にお越しいただきました。ご来場いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

(生活デザイン学科・
角田千枝)



2023年度
WEB展

日本語日本文学科 第49回卒業制作展を開催しました

1月16日(火)～22日(月)、本学7号館1階ホール・相模大野ギャラリーにて、



ポスター



金賞「ことわ」



学長賞「fogy」



本学7号館1回ホールの様子

第49回日本語日本文学科卒業制作展と書道ゼミナールによる3学年書作展を開催しました。
原寸(拡大) 臨書2点、創作(漢字仮名交じりの書)1点、共同制作の4点を基本とし、8尺×16尺、全紙4枚継ぎの大作から半紙・色紙サイズの小品、美しい料紙に書いた作品など、計36点を出品しました。
ご来場頂いた皆様、誠にありがとうございました。
なお、今回の卒業制作展及び書道ゼミ学生の卒業論文題目は、2024年2月5日発行の「美術新聞」4～5面にて紹介されました。
(日本語日本文学科・下田)

中学部・高等部

切磋琢磨

私がこの合唱コンクールで達成したことは仲間と切磋琢磨しながら目標を達成することです。私はみんなと比べてリズムや音程を合わせるのに苦戦していましたが、そのせいで真剣に練習に取り組みることができなくなり周りに迷惑をかけていました。そして私は周りがどんどん上達していくなか一人音もリズムも取れていない自分を不甲斐なく思う気持ちでいっぱいになりました。それから「本気で取り組んでみよう」と決意し、素直にアドバイスを受け入れるなど練習に取り組む姿勢からかえていきました。そのおかげで逆にアドバイスでできるほどに成長することができました。この、仲間と切磋琢磨しながら目標を達成した経験はこの先の人生につながると思います。次の合唱コンでは先輩たちのようなパフォーマンスがあるものにしてみたいと思います。(中学部 篠原茉桜)



銅賞の2年1組



銀賞の3年1組



金賞の1年3組

発表を最大限聞いてもらう工夫

今回「食欲と色の関係」という発表でグループ発表を受賞することが出来ました。私は発表においては、聞き手に飽きさせないことが一番重要だと思っています。そのため私は二つの事に気をつけました。一つ目は「スライドを綺麗に仕上げる」という点です。一番重要なスライドがまともでないか、なかつたり地味だつたりすると、聞き手は飽きてしまいます。そのためパッと目を引くスライドを作成しました。二つ目は「聞き手に参加してもらう」という点です。発表中に聞き手に質問をし、手を上げてもらった事により、真剣に発表を聞いて貰う事ができました。もしも何か発表をする機会があったら、この二つの事を意識していきたいと思えます。(高等部 大平 桃寧)



生徒によるコース説明



304教室の受賞者



個人発表の様子

悔いの残らないように

私たちは関東大会で1位を受賞し、無事、全国大会出場権を頂くことができました。4月から12月の全国大会へ向けて練習をしてきて、時には挫けそうになることもありましたが、部員全員で一丸となって練習に励みました。本番は普段とは違う環境で演技をし、その日のコンディションによっても演技の出来が変わってくる場合があります。その為、いつもできていたのにできなかったと後悔することもありますが、今までの練習をしてきたことが100%発揮出来るとは限らないので、毎回の練習1回1回を大切に、緊張感を持って練習してきました。その結果、金賞を頂くことができましたが、私たちが一番大きく目標にしていた1桁の順位には1歩届かず、今年度の全国大会は先輩方が目標にしていた順位1桁を頂けるように、精一杯精進していきます。(バトントワリング部 部長 志村美由香)



ご声援、ありがとうございました



Hindi Sad Diamonds



恒例の全国大会ショット

スキー・スノーボード教室

私は計三回スキー教室に参加しました。その中で二回は初心者コースで滑っていましたが、少し滑れるようになったと思います。最後の一回は初級コースにしました。初級コースでは、曲がるときにスキーの板を八の角度から平行にできるように滑ったりしていました。昼食はレストハウスあたりというところで主に食べていました。カレーやラーメンがおいしかったです。日本一標高の高いパン屋さんの横手山山頂ヒュッテにも行ってよかったです。山頂からは下りるルートがあったのでそこから下って行きました。夜にはミーティングがあり、そこで先生方が企画してくださったビンゴゲームなどをしました。とても楽しかったです。(高等部 佐藤早姫)



スノーボード



スキー教室



山頂での集合写真

小学部

動物の飼育を通して、命の大切さを学ぶ

ゆきみへ

さいしょに合った時はドキドキしていたけど、
学校で会ったり家で預かっていたりしている間になれてきたよ。
エサをあげたり、ゲージをかえたりするのを覚えるまでは大変で、
なれるまで時間がかかったけど、とっても楽しかったよ。(略)
ずっと、ずっと大好きだよ。ぜったいわすれないよ。
ゆきみも小学部のみんなのことをわすれないでね。

いままでありがとう。

(4年生Yさんのお手紙より)

4月15日(月)の早朝、小学部で低学年の子どもたちがお世話をしてきたモルモットの「ゆきみ」が亡くなりました。この週末、お預かりいただいたご家族に見守られ、おだやかに息を引き取りました。平均寿命が5、6年といわれる中、ゆきみにとっても、子どもたちに大事に育てられて幸せな大往生の7年の生涯でした。ゆきみをお世話する中で、子どもたちが記録をつけた「観察ノート」は14冊にもなりました。ゆきみが亡くなった翌日のお昼休みには、ゆきみとのお別れの会が行われました。お手紙やお花、折り紙の作品を手にした多くの子どもたちが集まりました。今、ゆきみは百年校の下で安らかに眠っています。小学部でのモルモットやヤギの飼育体験を通して子どもたちは、動物の特徴や体



ゆきみとふれ合う子どもたち



保護者手作りの服を着ているゆきみ



ゆきみとお別れをする子どもたち

の仕組み、健康管理などについて学び、命とふれ合い、日々交代でお世話をします。週末や長期の休みの時には、保護者の皆様にもお預かりのご協力をいただき、動物飼育を支えていただいています。動物たちとふれ合う中で、そして「死」を受け止める中で、子どもたちは、命のぬくもりを肌で感じ、命の尊さ、命を預かる責任を学んでいます。

今日も小学部の子どもたちは、ヤギのバナラとモルモットの「しろな」「だいふく」「ゆきな」に愛情を注いでお世話をしています。(小勝)

認定こども園 幼稚部
第74回 卒園式

3月9日(土)、卒園式が行われました。大勢の方々の祝福を受けながら、晴天に恵まれ、さくら組の子どもたちが幼稚部を巣立っていききました。

式典では、担任に名前を呼ばれると「はい!」と力強く返事をする子どもたちの姿に胸が熱くなりました。園長先生のお話真剣に耳を傾けたり、「園歌」や「さよならばくたちのこどもえん」を元気よく歌ったりと、時間が経つにつれ子どもたちの卒園する気持ちが高まっている様子が伺えました。中には0歳児クラスから幼稚部に通っている子どもたちもおり、成長した様子に感激しました。

式終了後、保育室に戻り、担任から修了証書授与を行い、一人ひとり受け取りました。普段と違う改まった子どもたちの姿を見守る保護者の瞳は、喜びに溢れていました。

幼稚部での沢山の出会い、沢山の経験を胸に、小学校へと歩みを進めていく子どもたちの生活が、興味を広げながら、豊かで、実りのあるものになるよう職員一同心よりお祈り申し上げます。(幼稚部 山崎)



担任から名前を呼ばれる子どもたち



担任から修了証書授与



修了証書



園長先生のお話を聞く子どもたち



元気に歌う子どもたち



「ふくしま ZEB からカーボン ニュートラルの時代へ」

—いま、時代から要求されるもの、提案すべきこと—

飛木 佳奈

株式会社・土田建築設計事務所 代表取締役 社長
(昭和56年・短期大学部家政科家政専攻卒)

在学生やご家族や同窓会の皆様、こんにちは。私は昭和56年3月に本学短期大学部家政科造形コースを卒業しました飛木佳奈(旧姓:後藤)です。現在は4年制学部になり建築士の受験資格も得られる充実したカリキュラムになっていることを知り、嬉しく思います。今から45年前、地方から上京し、母と心細い気持ちで入学式を迎えたのが、つい先日のように思い出されます。現在、私は創業45年を迎える建築設計事務所の代表取締役社長として建築設計や会社経営に携わっておりますが、現在進めている仕事や普段、考えている事を皆さんにお話ししたいと思います。一つは、2050年カーボンニュートラルの実現です。実現には、省エネルギー性能の確保された建築物が必須となってきましたが、その一つの技術として、ZEB(Z:ゼロ E:エネルギー B:ビルディング)建物で使用するエネルギーを限りなくゼロに近づけて環境負荷低減を行う技術です。写真に掲載している建物が令和2年2月に竣工した施設です。東北では初のZEB超工社となり、環境省や国交所のホームページでトップに掲載していただいています。また、既存建築物のZEB化改修も今後需要が見込まれていますので、県のガイドラインを作成したり、現在進行している案件では、15,000㎡地上8階建ての庁舎の改修提案も行っています。二つ目は、人間が本来持っている五感を大切に施設づくりです。ここ数年、子ども園の園舎設計の仕事も増えてきており、設計実績を積んできておりますが写真

は、今年2月に竣工開園した民間の子ども園ですが、色彩心理学を活用して、内部空間に木の造作スペースを造りました。省エネルギーの施設において機械で管理するのは、簡単ですが、あくまで主役は、そこで生活する人であることを大事にしており「風や光」の通り道を計画し、心理学を活用した色彩計画をします。いま、35年の建築設計業務を振り返ると、半年の期限付きのアルバイトからこの仕事に入り、建築専門用語すらわからない私は、腕をシャーペンの芯で黒くしながら、図面作成の線の描き方からペンの持ち方を学び、叱咤激励され、二級、一級建築士を取得した思い出が妙に懐かしく思えます。今は、DX化の社会になり便利で早い時代でもありますが、反面世の中の変化のスピードも速くなり多様化も進んでおります。建築家を目指している在学生のみならず、緑豊かな相女のキャンパスで十分に英気を養ってエンジョイしてください。夢は実現します。素人からスタートした私を育てて応援してくれたすべての者に感謝してペンを置きます。



仁井田の社わかばこどもえん (定員95名)
令和6年2月竣工 木造平屋建て 985㎡
色彩心理学を活用した室内遊び場



福島県発注:
東北初のZEB庁舎、福島県須賀川土木事務所
令和4年5月第10回カーボンニュートラル賞 受賞
(一般社団法人 建築設備技術者協会)

2024年6月以降開講講座のお知らせ

社会環境の変化にともなって、人々のライフスタイルが変化してきている中、以前にも増して「生涯学習」の必要性が高まっています。本学では、地域の皆様にとっての多様な学びの機会を提供しています。

●春季さがみアカデミー

【講座2】電子書籍出版のススメ 講師:春山 純一 開催日:7月27日(土) 10:40~12:10
定員:60名 受講料:1,500円 申込締切:7月12日(金)

こんな方にオススメ!

- 自分や大切なひとの言葉、文章、作品を残したい、また、ほかの人にも見てもらいたい方
- 電子書籍を出版してみたいけど、何から始めたら良いかわからない方

【講座8】ことわざ英語かるた道場 講師:匂坂 桂子 開催日:7月24日(水) 14:00~16:30
定員:30名 受講料:2,500円 申込締切:7月10日(水)

こんな方にオススメ!

- かるた大好き♪ ●仲間と遊んで、ことわざ英語かるた大会を開きたい!

詳細は
こちらから
(さがみアカデミーHP)➡



●未来志向の女性に向けたリーダーシップ育成講座

開講期間:10月5日(土)~2025年2月22日(土) 定員:30名 申込締切:6月1日(土)~9月20日(金)

受講料:	一般	卒業生
履修証明プログラムコース	168,000円	148,000円
エリア受講コース 1つ選択	80,000円	70,000円
エリア受講コース 2つ選択	130,000円	115,000円

詳細は
こちらから
(リカレントHP)➡



※詳細は本学ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ】夢をかねるセンター 生涯学習支援課
TEL:042-747-9047 FAX:042-747-9599 Mail:sagami-info@mail2.sagami-wu.ac.jp
(電話受付時間:平日9:00~17:00)

2023年度マーガレット募金/創立125周年記念事業募金決算報告

「マーガレット募金」及び「創立125周年記念事業募金」の収支について、下記のとおりご報告いたします。ご支援いただきました皆様へ厚くお礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之 / 125周年募金委員会委員長 速水 俊裕

2023年度マーガレット募金決算報告

自2023年4月1日 至2024年3月31日

収入の部		
計	467件	6,194,641円
前年度繰越金	-	64,811,204円
合計	-	71,005,845円

支出の部	
計	9,040,315円
翌年度繰越金	61,965,530円
合計	71,005,845円

活動内容

「学習活動支援事業」 募集（応募6件 採択4件） 「教育・研究活動支援事業」 募集（応募0件 採択0件）
 「キャンパス整備事業」 募集（応募3件 採択2件） 「特色ある教育への支援」 申請（実施1件）

寄付者ご芳名（敬称略、五十音順）

個人（計133名、うち匿名希望44名、未記入9名）

有田 雅一	五十嵐絵理子	石塚けい子	泉 邦寿	市橋 綾子	岩本 明子	梅林 博人	浦辺 敏子	大塚 光子
小川 和子	小川美知子	奥貫 妃文	奥村 裕司	男鹿さとみ	風間 誠史	片岡 朋子	加藤 浩子	金井美恵子
金森 剛	神子 千鶴	上條美和子	唐原マサ子	菊池多喜雄	木根淵由美	熊川 勝	小泉 京美	小塩 朝行
小杉 正典	児玉小百合	後藤 和宏	小松 静子	齋藤 淳志	齋藤 秀磨	佐久間美澄	佐光 裕子	佐藤 藤江
渋谷 和臣	庄司 フミ	杉江 文子	杉山 誠一	鈴木 哲哉	澄井 俊哉	清家 正博	高野由美子	田杭泰次郎
武石 輝久	田中 永子	田村 周子	丹喜 信義	千葉アグリ	千葉 仁子	富樫 慎治	徳江 明美	登美ひろ美
中島 和彦	中島美千代	中野 沙織	中野チナミ	仲野ひかり	新平 鎮博	二階堂 充	西澤 陽子	速水 俊裕
藤田 裕子	古川 大介	眞喜屋邑子	水上 由紀	森田 晃一	森田 直美	柳沢 香絵	山口 栄子	山田とし子
山本 幸恵	山本 順子	湧口 清隆	湯澤 宏行	洋 吹敏	吉野 幸子	渡邊 雅史	M.M	

法人および団体（計4件）

神奈川ファイリング株式会社 「さがじょの四季」クッキープロジェクト 相模女子大学同窓会翠葉 株式会社3pm・さんじ

2023年度創立125周年記念事業募金決算報告

自2023年4月1日 至2024年3月31日

収入の部		
計	239件	11,405,064円
前年度繰越金	-	0円
合計	-	11,405,064円

支出の部	
計	0円
翌年度繰越金	11,405,064円
合計	11,405,064円

寄付者ご芳名（敬称略、五十音順）

個人（計196名、うち匿名希望64名、未記入6名）

伊澤 利通	石黒 陽香	市川 時子	市橋 綾菜	伊藤 寿弘	稲場あさひ	岩田 聡	内山 友理
梅林 博人	大谷 聡穂	大和田桂子	小川 和子	奥住 和美	奥貫 紀文	男鹿さとみ	小野 和敏
角田 雅昭	風間 誠史	加藤 陽温	金子 裕治	鎌田 朝子	上條美和子	亀山 秀夫	川又 タキ
川村 真子	川村 政美	神田 剛	木村 健一	窪田 海斗	熊川 勝	倉持めぐみ	黒川 大輔
児玉小百合	後藤光之助	小宮山弘幸	西條 健太	齋藤 啓	齋藤ゆめり	齋藤 仁	佐久間美澄
佐野 眞理	鳥田 涉	下西一念穂	杉本 知彦	鈴木 哲哉	関口 祥子	関根 久	高野 勲
高野 則夫	瀧口 淳	田杭泰次郎	田口 彩	武井 一正	武石 聡子	武石 輝久	竹下 昌之
田中 博史	田畑 雅英	田村 周子	千葉アグリ	手塚 明浩	照井美和子	富樫 慎治	登美ひろ美
中川 晶彦	中島 和彦	中島美千代	永田 傑	永戸 峰子	中西 香帆	中野チナミ	七蔵司 修
二階堂 充	西澤 陽子	根津 貴浩	橋本 明子	長谷川素美	林 毅浩	速水 俊裕	播磨 美貴
福沢 美香	藤井 利明	藤田 裕子	保坂まき子	保瀬 哲生	正井 愛子	松岡 久代	松本 国彦
松本 幸一	三須 一成	水野 進康	水野 義孝	道久田裕一	宮崎 泰男	宮本 茂則	目時 靖弘
本橋 明彦	森 映子	森崎 健志	森住 輝星	森田 直美	矢野 旭	山岸 眞子	山本 卓史
湯澤 宏行	防村 政彦	吉田 盛一	吉濱 季利	依田 真美	李 幸	渡辺 和昭	渡部 陽子

法人および団体（計10件）

SMBC日興証券株式会社 神奈川ファイリング株式会社 株式会社 カルチャー 株式会社 ケープラス 小杉園芸 株式会社 櫻内工務店
 大和証券株式会社 株式会社 ノーチス みずほ証券株式会社 相模女子大学中学部・高等部PTA

ご寄付に関するお問合せについて

「マーガレット募金」及び「創立125周年記念事業募金」については下記の連絡先までお問い合わせください。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

●お問合せ先

学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課 〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500
 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp 詳細につきましては、大学ホームページ（<https://www.sagami-wu.ac.jp/>）からでもご確認いただけます。

●その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先

相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916

125th Anniversary
since 1900

学校法人 相模女子大学

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。

発行:学校法人 相模女子大学 編集:学校法人 相模女子大学 総務課 〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 Tel:042-742-1411(代)